

国語科 学習指導案

単元名「プチ評論家になり文章を比較して読み、考えを伝え合おう」 教材名「君は『最後の晩餐』を知っているか／『最後の晩餐』の新しさ」

令和7年10月 第2学年 指導者 加藤 義忠

I 単元の構想

1 単元観

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編の内容〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ「観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること」C(1)オ「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること」を重点として設定した。

本単元で扱う教材は、「君は『最後の晩餐』を知っているか」と「『最後の晩餐』の新しさ」である。前者は、レオナルド・ダ・ヴィンチの傑作「最後の晩餐」について筆者自身が覚えた感動や「かっこいい」という評価を分析的に解き明かしていく評論文である。一方、後者は「最後の晩餐」と他の作品を比較することでその新しさを読者に示す解説文である。両者とも筆者の文章の書き方について、その意図や目的について考えながら読むことのできる文章である。また評論文と解説文と比較しながら読むことで、それぞれの文章の構成や表現の効果について考えることのできる力を養いたい。

本単元において生徒は評論文と解説文を比較しながら読む中で、作品の魅力をより伝えることのできる文章はどちらかを選択し、そのように考えた理由を他者と交流し合う。それぞれの文章の共通点や相違点などに着目しながら読むことは、評論文や解説文の特徴や表現の効果を抑えることにつながる。このように、プチ評論家になり二つの文章を比較する活動を通して、生徒は、文章の構成や論理展開、表現の効果についての関心を高め、より一層言葉に着目して文章を読み解こうとする態度を養うことができる。

2 研究との関わり

本研究では、生徒が「自らの学習を調整しながら課題解決に迫る生徒の育成」を主題とした。そのために、生徒が自分で立てた学習計画や前時の振り返りを基に自身で本時のめあてを立てる場を設定する。単位時間ごとに「学習計画や振り返りを基に本時のめあてをもつ」「めあてに沿って学習を進める」「本時の取組を振り返り、次時に必要な学びを抑える」というサイクルを継続し生徒が学習の調整をしながら学びを進める授業を目指す。また、生徒が単元の学習課題を追究する意欲をもてるように、追究が進んだタイミングで新たな視点から課題解決に迫るための問題提起をすることを手立てとして研究を進めていく。

本単元では、単元の学習課題の達成に向けて、振り返りシートに「本時の学習の成果」と「次時に必要な学び」を記入することで生徒が自身の学習を把握しながら学びを進めていく。また、生徒の学びを深いものにするため、生徒が二つの文章を比較して捉えた表現の共通点や相違点を基に、筆者が用いた表現の意図や目的に着目できる問題提起を設定する。

3 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	・情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができる。(2)イ	・仮説や検証結果について図や表を用いてまとめる等、読み取った情報を表に整理することができる。
思考力、判断力、表現力等	・観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。C(1)エ ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。C(1)オ	・文章の起承転結や要旨、結論に着目しながら読むことはできるが、文章を比較しながら読む経験が乏しいため、それぞれの文章の書き方や表現の特徴を抑えることに課題がある。 ・生活の中の経験を基にして筆者の主張に対して自分の意見をもつことができる。

<p>学びに向かう力、人間性等</p>	<p>・言葉がもつ価値を認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>・学び方を選択して学ぶことを好むが、単元の学習課題を深く追究しようとする姿勢に課題がある。</p> <p>・交流で考えを広げる姿が見られるが、交流の目的を見失い学習が深まらないことがある。</p>
---------------------	--	---

4 評価規準

<p>知識・技能</p>	<p>①情報と情報との関係の様々な表し方を理解して使っている。</p>
<p>思考・判断・表現</p>	<p>①「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。</p> <p>②「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。</p>
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>①進んで観点を明確にして文章を比較し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。</p>

5 指導及び評価の計画（全6時間：本時第5時）

過程	時間	□学習活動	知	思	態	◆評価項目<方法（観点）> ○指導に生かす評価、●評定に用いる評価
つかむ	1	<input type="checkbox"/> 二つの文章を読みどちらの文章がより作品の魅力を伝えていると思うか初発の感想を書く。 <input type="checkbox"/> 選択した文章がどのように作品の魅力を伝えているのか第5時に意見交流することを目的として学びを進めていくことを捉える。 <input type="checkbox"/> ガイドラインを参考にして単元全体の学習計画を立てる。 <input type="checkbox"/> 本時の学びと次時の課題を振り返りシートに記入する。			①	<p>○単元の学習課題を捉え、その解決に向けて単元全体の学習計画を立てている。</p> <p><振り返りシート（態①）></p>
<p>[単元の学習課題] 「プチ評論家になって、作品のすごさが伝わる文章はどちらかを考え、意見を伝え合おう。」</p>						
追究する	2 3 4	<input type="checkbox"/> 第1時に立てた学習計画や前時の振り返りを基に「マイめあて」を立てて学習を進める。 <input type="checkbox"/> 第5時の意見交流に向けて、選択した文章について分析したり、文章を比較したりしたことをワークシートにまとめる。 <input type="checkbox"/> 本時の学びと次時の課題を振り返りシートに記入する。	①	①		<p>○「評論文」と「解説文」という二つの文章の違いを捉えそれぞれの特徴や共通点、相違点を表にまとめている。</p> <p><ワークシート（知①）></p> <p>○文章の構成や論理の展開、表現の効果に着目して、二つの文章を比較している。</p> <p><ワークシート（思①）></p>

5 本時	<input type="checkbox"/> それぞれの文章の特徴や表現の効果について、異なる文章を選択した者や同じ文章を選択した者など交流する相手を選んで意見を伝え合う。 <input type="checkbox"/> 意見交流後に、どちらの文章がより作品の魅力を伝えていると考えるのか立場を示し、第1時との意見の変容を全体で共有する。 <input type="checkbox"/> それぞれの文章に工夫があることを捉えた上で「筆者の表現の目的や意図は何だろうか」という問題提起について考える。 <input type="checkbox"/> グループで筆者の表現の目的や意図について意見交流する。 <input type="checkbox"/> 本時の学びと次時の課題を振り返りシートに記入する。	②		○二つの文章を比較したり、書き方の特徴を捉えたりすることで、筆者が文章を書いた意図や目的についての自分の考えを深めている。 <ワークシート(思②)>
[本時のめあて] 「プチ評論家になって捉えた文章のよさを、他者と伝え合おう。」				
まとめ	<input type="checkbox"/> 前時の交流を受けて、それぞれの筆者の表現の目的や意図について再度自分の考えを整理する。 <input type="checkbox"/> それぞれの文章が「誰に向けて書かれたものなのか」「客観的な表現や主観的な表現は日常生活の中のどんな場面にふさわしいものなのか」グループで意見交流する。 <input type="checkbox"/> 単元全体の学びを振り返りシートに記入する。	②	①	○二つの文章を比較したり、書き方の特徴を捉えたりすることで、筆者が文章を書いた意図や目的についての自分の考えを深めている。 <ワークシート(思②)> ○前時までの学習を振り返りながら、考えが広がったり深まったりしたことを踏まえて自分の考えを書こうとしている。 <ワークシート(態①)>
[本時のめあて] 「筆者の目的や意図を捉え、どのように作品のすごさを表現していたかを書こう。」				

II 第5時の学習

- 1 ねらい プチ評論家になって「最後の晩餐」のすごさを伝えられる文章はどちらか自身の考えを伝え合う学習活動を通して、文章に表れた筆者の目的や意図を捉えられるようにする。

2 展開

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応【S】	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 (導入5分)	◎生徒が自ら本時のめあてを立てられるよう、前時の学習で捉えた必要な学びや学習計画を基に「マイめあて」を設定するよう促す。

<p>S : 自分の考えを広げるために違う立場の人と交流することが必要だな。根拠を示して自分の意見を伝えることを「マイめあて」に設定しよう。</p>	<p>○本時の見通しをもてるように、交流の目的を全体で確認する。</p>
<p>＜めあて＞ プチ評論家になって捉えた文章のよさを他者と伝え合おう。</p>	
<p>2 「最後の晩餐」について整理したワークシートを用いて共通点や相違点を示しながら、どちらの文章が作品の魅力を伝えられるのかを交流する。 (展開①20分)</p> <p>S : 布施さんの文章は主観的だったのに対して、藤原さんの文章は客観的なことを根拠にしていたな。</p> <p>S : 異なる立場の人との交流を通してそれぞれの文章によい点があることに気付けたな。</p>	<p>○異なる立場や同じ立場の者同士で意見の交流ができるように、デジタル共有ソフトを使ってそれぞれの立場を一覧で提示し、交流する相手を選択できるようにする。</p> <p>○意見の根拠を示しながら説明できるように、第2時から第4時でワークシートにまとめたことや本文を基にして意見を交流するように促す。</p> <p>○筆者の表現の目的や意図に考える焦点をあてられるように、交流後に改めて立場を設定する時間と、デジタル共有ソフトを使用して結果を一覧で示す場を設ける。</p>
<p>3 交流後の意見の変容を全体で共有した後、問題提起「筆者の表現の目的や意図は何だろうか」について考える。 (展開②15分)</p> <p>S : 「かっこいい」という言葉が「」で囲まれていることや作品を比較することには、どんな目的や意図があるのだろうか。</p> <p>S : ヒントカードについて他者と交流したことで作品同士を比較することで、より説得力のある文章にしたのだと考えた。</p> <p>S : 同じグループの人たちと交流してヒントカードの他にも筆者の目的や意図について考えてみよう。</p>	<p>◎単元の学習課題の解決に迫るようになるために、追究が進んだ段階で新たな視点である「筆者の目的や意図」に関する問題提起を投げ掛け、追究意欲の向上を図る。</p> <p>○問題提起についての様々な考えが引き出されるように、「キーワード」が書かれたヒントカードを教室中央に用意し交流を促す。 ヒントカード ヒント①「誰に向けて」 ヒント②「説得力」 ヒント③「文末表現」 ヒント④「『 』が使用された言葉」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆評価項目</p> <p>二つの文章を比較したり、書き方の特徴を捉えたりすることで、筆者が文章を書いた意図や目的についての自分の考えを深めている。</p> <p style="text-align: right;">＜ワークシート（思②）＞</p> </div>
<p>4 本時の学習を振り返りシートに記入する。 (終末 10分)</p> <p>S : 異なる立場や同じ立場の人との交流を通してそれぞれの文章で使われている言葉や表現には筆者の目的や意図があることに気付くことができた。次回は筆者の目的や意図を踏まえて、それぞれの文章がどんな場面に適しているのか考えてみよう。</p>	<p>○本時の学習を次時につなげられるように、学習内容を振り返る時間を設定する。</p> <p>○自分の考えを広げたり、振り返りの手掛かりとしたりするために、ICT端末上で振り返りシートを記入することで他者の振り返りを参考にできるようにする。</p>

3 板書計画

君は「最後の晩餐」を知っているか
「最後の晩餐」の新しさ

めあて プチ評論家になって捉えた文章の
よさを他者と伝え合おう。

交流の仕方

- ☆自分の意見を伝えよう。相手の意見を聞こう。
 - ※ワークシートを基に意見と理由を伝えよう。
 - ☆必ず異なる立場の人とも意見を比較しよう。
 - ☆参考になる意見はメモしよう。
 - ☆質問して、考えを深めたり、広げたりしよう。
- 質問の例 「なぜ・どうして？」
「どこからそう考えたのか？」
「どういうこと？」

「具体的には？例えは？」

問題提起

「筆者の表現の目的や意図は何だろうか。」

自分の立場・理由をモニターで
掲示

どちらの文章がより作品のすごさを伝えていると思うか？
立場・理由を付箋に記入して貼り付けよう

高は「最後の晩餐」を知っているか 「最後の晩餐」の新しさ

高は「最後の晩餐」を知っているか	高は「最後の晩餐」を知っているか	高は「最後の晩餐」を知っているか	高は「最後の晩餐」を知っているか	高は「最後の晩餐」を知っているか